2020 年 6 月 5 日

上海日本人学校浦東校の現在

上海日本人学校浦東校　教諭　松井　明

上海では新型コロナウイルスの影響が１月下旬から出始め，２月は街にほとんど人や車が見られない状態でしたが，３月に入ると徐々に街に活気が戻り，現在は，ほぼ通常の生活が送れるようになってきています。そのような中，上海日本人学校は１月２３日から約４か月間休校になりました。ようやく５月 28 日にプレ開校という形で学校を再開し，６月８日には本開校を迎え，始業式と入学式を迎えます。

しかし，プレ開校したとはいうものの，感染症対策の規制は厳しく，通常の学校生活が送れていません。今までは多くの生徒がスクールバスで登校しましたが，感染症対策の影響でスクールバスが運行できず，生徒全員が保護者の送迎で登下校しています。保護者と一緒に，タクシーや地下鉄で片道１時間以上かけて通学している生徒もたくさんいます。校門前では１m間隔で並び，校門でサーモグラフィーを使って検温を行います。体温が 37.0℃以上の場合は検温スペースで再検温をし，そこでも体温が 37.0℃以上だった場合は，その日の授業を受けることができません。生徒玄関で上履きにはきかえたら，下足を袋に入れて教室に向かいます。 靴箱は使えません。教室のロッカーや棚も使えず，自分の机の横に荷物をかけます。人と１m以上の距離を保ち，教室では自分の席で静かに過ごします。 階段や廊下は一方通行で，友だちと並んで歩いたりせず，前後の人と１m以上の間隔を意識しながら移動をします。

校内では，常に１m以上の距離をとります。授業の道具や上履きなどの私物は毎日持ち帰ります。衛生上の理由から，ごみ箱は撤去されており，生徒はごみ袋を持参し，自分のごみは自分で持ち帰ります。弁当を食べる以外は，必ずマスクを着用します。トイレから教室へ戻るときも必ずアルコール消毒をします。弁当を食べる前，手洗いを念入りにした後もアルコール消毒をします。生徒は１日で 10 回以上はアルコール消毒をしていることになります。生徒は原則，自分の席で過ごすかトイレへ行くことしかできません。生徒が下校した後，毎日専門業者が入り，使用した教室や廊下の全てを消毒します。学校全体で，積極的に感染症対策を行い，上海市からの開校の許可をもらっています。

そして何より，現在，本来いるべき先生が半分の数しかいません。日本と中国ではお互い入国禁止となっているため，今年度赴任するはずだった多くの先生が，まだ赴任できていません。上海に残ってい

る教職員だけで，感染症対策と日常の学校業務を行っています。マスクを着用していても長時間の生徒との対面での授業に制限がある理由と先生が少ないという理由から，別教室で先生が授業を行い，それを複数のクラスでライブ配信をして行っています。日本にいる赴任出来ていない先生には，授業動画を撮影して上海に送ってもらい，それを複数のクラスで投影して授業を行っています。入国禁止前に日本へ一時帰国して，その後，上海へ戻れなくなっている生徒もたくさんいます。

新型コロナウイルスの感染者は，中国では少なくなっていますし，日本も落ち着いてきていると聞いています。ただし，第２波，第３波への警戒が必要です。学校は規制を守りつつ，試行錯誤しながら授業や学校生活を送っている状態です。はやく，世界的な混乱が収まり，当たり前の日常が戻ってくることを願っています。そして，その日が来るまで，生徒と生徒，そして事務スタッフが一丸となって，これからもがんばります。

撮影教室
教室で一人で授業を行います。タブレットを通して各教室と画像と音声のやりとりができます。

授業教室
スクリーンに映った先生の授業を視聴しながら学習に取り組みます。発言も可能です。